

## 敬語の種類と使い方

敬語は、これまで「尊敬語・謙譲語・丁寧語」の3つに分ける考え方が一般的でしたが、平成19年2月2日の文化審議会答申(「敬語の指針」)では、3種類のうち、「謙譲語」を「謙譲語Ⅰ」と「謙譲語Ⅱ」に、また「丁寧語」を「丁寧語」と「美化語」に分け、全部で5種類に整理しています。以下に敬語の種類と慣用的な表現例等を記します。

### 1 敬語の種類

#### (1) 尊敬語(「いらっしゃる・おっしゃる」型)

相手側や第三者の行為・ものごと・状態などについて、その人物を立て、高く位置付けて表現することにより敬意を表す言葉

##### ① 行為等についての尊敬語〔該当例〕

いらっしゃる、おっしゃる、なさる、召し上がる、読まれる、始められる、お導き、御出席、(立てるべき人物からの)御説明、お(ご)～になる(例：お使いになる)

##### ② ものごと等についての尊敬語〔該当例〕

お名前、御住所、(立てるべき人物からの)お手紙

##### ③ 状態等についての尊敬語〔該当例〕

お忙しい、御立派

#### (2) 謙譲語Ⅰ(「伺う・申し上げる」型)

自分側から相手側又は第三者に向かう行為・ものごとなどについて、その向かう先の人物を立て、自分をへりくだって表現することにより敬意を表す言葉

##### ○ 謙譲語Ⅰ〔該当例〕

伺う、申し上げる、お目に掛かる、差し上げる、拝見する、(立てるべき人物への)お手紙、(立てるべき人物への)御説明、お(ご)～する(例：お届けする)

#### (3) 謙譲語Ⅱ(丁寧語)(「参る・申す」型)

自分側の行為・ものごとなどについて、話や文章の相手に対して丁寧に述べることで、相手に敬意を表す言葉

##### ○ 謙譲語Ⅱ〔該当例〕

参る、申す、いたす、おる、拙著、小社

#### (4) 丁寧語(「です・ます」型)

話や文章の相手に対して丁寧に述べ、相手に敬意を表す言葉

##### ○ 丁寧語〔該当例〕

～です、～ます、～(で) ございます

#### (5) 美化語(「お酒・お料理」型)

聞き手に対する配慮から、ものごとを美化して述べ、相手に上品な印象を与えるために使われる言葉

##### ○ 美化語〔該当例〕

お酒、お料理、お店、お食事、お飲み物、お部屋、お茶、お花

便所→お手洗い、髪→おぐし、水→おひや、めし→ごはん、服→お召し物

### 2 敬意を表す慣用的な表現の例

#### ① 断り

大変申し上げにくいのですが、〇〇できかねます。  
ご事情はお察しいたしますが、〇〇いたしかねます。

## ② 謝罪

申し訳ございません。大変失礼いたしました。

## ③ 依頼

恐れ入りますが、〇〇していただけますか。お願いいたします。  
失礼ですが、〇〇をお願いできませんでしょうか。

## ④ 感謝

ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

## ⑤ 肯定

承知いたしました。かしこまりました。

※ 上記の他、相手の期待に応えられないとき、負担をかけるとき、お願いをするときなど、適切な「クッション言葉」を活用することが求められます。

- ・申し訳ありませんが、〇〇
- ・ご足労をおかけしますが、〇〇
- ・お手数をおかけして、申し訳ございませんが、〇〇
- ・恐縮ですが、〇〇

【参考：その他の慣用的な表現の例】

項 目	相手の側に使う表現	自分の側に使う表現
本 人	あなた様、〇〇様	私、こちら、当方
会 社	そちら様、貴社、御社	私ども、弊社、当社、小社
訪 問	お越し、お立ち寄り	お訪ね、参上、お伺い
受 領	ご笑納、お納め、御査収	拝受、受領、受納
品 物	ご厚志、けっこうなお品、佳品	寸志、粗品
文 書	貴信、貴書、ご書面	書面、書中、弊信
意 見	ご意見、貴見、ご高説	私見、愚見、愚説、愚考
配 慮	ご配慮、ご高配、ご厚情、ご尽力	微意、微志、薄志
家 族	ご家族様、ご一同様、皆様	家族一同、家中、私ども

## 3 間違いやすい敬語の使い方の例

- (1) 相手の動作に謙譲語は使わない → ×あなたが拝見してください。
- (2) 二重敬語は使わない → ×お読みになられる。×おいでになられる。×社長様
- (3) 身内に敬語は使わない → ×青木課長は、席を外されています。
- (4) 敬語を使わなくてもよいものに敬語を使わない→×おコーヒー、×お犬（〇お花）

敬語は、「相手を認めている」という自分の気持ちを伝えるための手段といえます。相手を認めることにより、自分も社会から認められ、円滑なコミュニケーションを図ることができるのです。

したがって、敬語を使うときに最も大事なことは、相手を敬う気持ちです。相手に敬意を抱いていれば、敬語を使おうという気持ちになり、敬語を使い慣れてくれば、自然に正しい敬語が口をついて出てくるようになるものです。むしろ、「習うより慣れろ」の精神を持って、普段から敬語を使うように努め、積極的に活用していくことを心がけましょう。